

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2770107320		
法人名	社会福祉法人 天寿会		
事業所名	グループホーム ファミリーハウス美原		
所在地	大阪府堺市美原区平尾1848番地1		
自己評価作成日	平成24年5月1日	評価結果市町村受理日	平成24年7月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年5月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入所される事でご家族との関係や地域の方と疎遠にならない様に良好な関係作りにも努めています。その為にホームでの行事(クリスマス会・日帰りバス旅行・秋祭り等)にはご家族様にも積極的に声かけをして参加頂いております。色々な行事に参加して頂く事で、共通の喜びや悩みを共有できご家族同士が大変仲良くなられ結果ご利用者にとってはアットホームな雰囲気での生活が送れている様に思います。又、毎年秋祭りを開催して近隣の子供達にも楽しんで頂いて地域の一人として受け入れて頂いています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当事業所の特長のひとつに、利用者の生きがい、楽しみ作りがある。利用者が手作業で作る、ティッシュ袋、爪楊枝ケース、カットパンケース(貼るちゃん)、ぞうきん等の作品を小中学校や地域に配布している。この活動は、地域への事業所からのメッセージにもなっている。いつまでも元気に過ごしてもらうために、日帰り旅行を計画して、思い出づくりをしたりを試みたりしている。また一方では、ADL維持のために、リハビリ体操を導入している。家族会の開催や行事への参加要請などで、家族との交流の機会を多くとり、家族と協力して利用者支援の方針を明確にしている。職員は家族と親しく会話するための心得として「ふた言、家族様に話しかける」が徹底されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として地域に愛されてをモットーにしており自分達が地域に貢献できる事を考えています。毎年、自分達に何が出来るか検討して取り組む課題を決め実践しています。	地域に愛され、自立した生活、生きがいのある毎日が過ごせるように、利用者を支援する事をコンセプトにして、職員が知恵を出し合った取組を見る事が出来る事業所である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当ホーム駐車場での秋祭りの開催や利用者さんの残存機能を活かした雑巾の手縫い「ぞうきんマン」を作り、近隣の小・中学校にプレゼントして交流している。	利用者と職員が協力して、ぞうきん、カットバン入れ、ティッシュ、爪楊枝入れ、等のグッズを制作し、近隣の学校に配布して地域との社会的つながりを作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームで地域の方やご家族様に呼びかけ「認知症サポート養成講座」を開催致しました。認知症についての理解を深める事ができました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人会の会長さんに参加して頂く事で地域の高齢者の方の情報やホームの利用者さん達の状況を理解して頂く機会が増えましたので意見を参考にさせて頂いております。	地域の代表者、老人会長にも出席を要請して、運営推進会議での意見交換をお行っている。そして、出席者からの提案等に行っている。地域密着の活動を目指す事業所として運営に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者さんの生きがい作りで、折り紙を使いカットバンの「貼るちゃん」を作成しております。取り組みを理解して頂き地域の各種イベントに「貼るちゃん」作成の依頼を頂ける様になりイベントで配布されています。	利用者の社会参加活動という面も意識して、折り紙や小物グッズづくりを通して、社会・地域とのつながりを持つことに積極的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員を設け毎月話し合いの会議を開催するとともに勉強会も開催しております。事務所内にも身体拘束排除宣言を掲示しております。	職員には、身体拘束の与える影響について、研修や、実践を通じて徹底させている。帰宅願望のある利用者の方は、家族とも相談しながら、個別に必要な対応を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を開催してホーム内では特に言葉による虐待が無い職員同士で言葉使いに問題が無いかに注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修に権利擁護についての勉強会を計画的に入れており勉強出来る機会を設けている。必要に応じ、ご家族にお知らせしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に契約書と重要事項説明書を用い説明を行っておりご理解頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価のご家族様アンケートも良い機会ですし運営推進会議や家族会・ご家族様交流茶話会・行事にご家族にも参加して頂く事で意見・要望をお聞きする機会も多く設け運営推進会議や家族会の議題にしております	家族とのコミュニケーションづくりを積極的に行っている。家族会、交流会、行事案内等、家族と協力関係を築いて、利用者を支援する姿勢が明確である。家族は事業所に協力すると共に、それらの取組を評価している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回設け運営会議で取り組みや状況を報告しております。	管理者と職員間の意思の疎通が良好な職場づくりが行われている。職員が夫々の委員会に参画して、全員で事業所を良くして、利用者喜んで貰おうという思いで取組んでい様子が窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議を月1回設け運営会議で取り組みや状況を報告しております。職員は自己評価を定期的に行い自分で立てた自己目標の達成等について反省や上司の意見を聞く事が出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は新人・中堅・ベテランで必要に応じ研修に参加出来る機会を設けている。又、法人研修も定期的に有りホーム内でも勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム事業者連絡会議や介護保険事業者連絡会・グループホーム東区、美原区交流会等の同業者との交流も定期的により各事業所と情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自分の気持ちを上手に表現出来る方が少なく必ずしもご家族の思いと一致しておりませんが入所前でも色々な催しに参加して頂きホームの事を知って頂くことから始めて入所しても安心と思っ頂ける様に努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所によりご家族との関係が疎遠になるのではなく一番にご家族との関係の継続と生活されてきた地域の方との関係が途絶える事が無い様にご家族を含めてのお世話をさせて頂く気持ちでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に移乗・移動・食事・排泄等項目別に現状と希望等をお聞きして暫定期間中に様子観察を行いサービスにつなげています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に聞いたり、教えてもらったり意図的に経験を活かせる場面設定をしてお手伝いを積極的にお願ひしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自分が入りたいと思える施設を選んで申し込みをして下さいと施設見学の時にお話しをしています。入所後は参加型施設ですので、色々な行事へのご家族の参加を呼び掛け、家族同士の交流にも力を入れています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了解があればお友達や近隣の方の面会も特に制限はしておりませんので自由に面会に来られています。近所のスーパーにも買物に出かけます。	馴染みのお店での買い物、知りあいの方との面会等、家族の協力を得ながら、利用者の以前からの関係の維持が事業所の暮らしでも継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の自由な時間と他者と一緒のレクの時間とメリハリを付けたり、1階と2階の交流やADL別の交流を心がけ気の合う同士を隣の席にしたりその時々で配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、退所となるケースが多いですが退院後の相談にも乗り必要に応じ他施設を紹介させて頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分のしたい事、食べたい事等、小さな事ですが自分で決定出来る機会を作り、自分で訴える事が出来ない方には介護職員は常にご利用者の代弁者であり不利益にならない様に努めています。	訴えの少ない利用者にも、根気よく接して、本人の表情を読み取り、本人の思いに沿った支援が出来るように、職員同士が情報を共有しながら、支援に取り組んでいる。	日常の、本人の昔の話や家族の話から、若い時の本人の生活歴や世相について、少しでも収集して、整理して、これからのケアに役立てる方法等も検討しては如何か。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族より経歴等についてお聴きしたり入所後も積極的に生活歴やエピソードをお聴き出来る様に担当だけでなく面会時には職員は積極的に現状報告をしながら情報を収集しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当が中心になって必要に応じ職員会議やケース会議で話し合い全員で情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者にも参加してもらう事も有、居室担当が他の職員からの情報も集めケース会議でサービス内容を検討しますが日々の実施はその日の出勤者全員で実行して行きます。	利用者及び家族から、事業所での暮らし方の希望を聞き、かかりつけ医の意見を参考にし、必要とされる支援課題を職員で話し合っ、介護支援計画書を作り、実践し、モニタリングを実施し、ケース会議で計画をフォローする手順で行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実行は実行者が意見を書くが1ヶ月の評価は居室担当が代表して記入します。3ヶ月・6ヶ月とプランを見直し評価しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人にヘルパーステーションや特養・老健もありますので本人や家族の状況にあったニーズに対応する事が出来ます。法人としての対応もできますので柔軟な支援を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣や老人会のボランティアやご利用者の作品展「みんなでつくっ展」の開催場所で地域の協力を得ながら楽しく生活を送る事が出来ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医についての話をします、その上で選んで頂く様にしています。必要に応じ認知症専門医に受診して頂く場合も有ります。	先ずは、以前からのかかりつけ医での受診希望があれば、それを優先する。内科、歯科の訪問往診の他に、ADL維持のためにリハビリ体操を導入している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないので、その都度主治医に上申して指示を仰いでいます。Dr往診時には状況を報告し又、必要に応じ往診に来て頂く事でご利用者の健康管理に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急でない時は出来るだけ、事前にお聞きしている病院や入院された事がある病院等への受入れを優先しています。退院等につきましてもご家族やソーシャルワーカーさんと話し合いスムーズに退院出来る様に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携加算を取っていませんので決まった訪問看護師は居りませんが、ご家族の希望でぎりぎりまでお世話した事がありホームで出来る事、出来ない事をご理解して頂いた上でご希望に添える様に努めております。	入所の段階で、重度化時の対応時について家族と話し、事業所の出来る範囲を説明して、納得を得ている。対応が必要になった時点で、再度、家族と相談して、意向を聞き、事業所として、出来る限りの支援を行う姿勢である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開催してマニュアルも作成しておりますが、急変や事故は度々有る訳ではないので実際遭遇した時に慌てず行動できるかは、まだまだ勉強不足と思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練やマニュアルも有るが今回の東日本大震災から感じた事は地域の方の手助けがないと自分達だけの避難は難しいと痛感しました。地域の方との協力体制を今以上に築いていく必要がある。	防火設備の整備、避難訓練、マニュアル整備、防災マップ、近隣からの協力体制等、いろいろな方向から災害対策を講じて、万一の事態に備えている。消防協力事業所にもなっている。	職員の防災意識の醸成も重要な一面であるので、定例的に「防災」を意識する習慣作り(例えば防災の日)も検討しは如何か。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お年寄りだから恥ずかしくないだろうと思わず自分に置き換えて自分がされて嫌な事は他者にもしないを施設方針で取り組んだりした。安全とプライバシーの兼ね合いについても理解が得られる様に努めている。	利用者の人格の尊重と、プライドへの配慮をすることを、職員に徹底している。個人情報の取り扱い方も適切であり、トイレ誘導時の声かけも、羞恥心に配慮した方法で対応されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単な事柄を決めてもらう事を意図的に演出して自分の意見が言える機会を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分で自由に時間を過ごす事が出来る方と支援が無いとどうしていいかわからない方とでは当然対応が違ってきます。特に夜間に徘徊され不眠の方については朝食の時間を遅らすなどの対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室がありますが馴染みの美容室に行きたい方はご家族と外出して行かれています。衣類につきましても自分で選べる方は入浴前に自分でセットされています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食何にしますかと言うわけには行きませんがお誕生会や行事の時は何が食べたいですかと聞いています。又、職員も一緒に食べて一緒に片付けをしています。	食事の準備では、おにぎりを結んだり、食後の下膳、テーブル拭きなどの一連の作業に、利用者の参加を促し、生活リハビリの大切な時間となっている。職員も一緒に食事をしながら、必要な利用者には介助を行い、語らいながらの、楽しい雰囲気のある食事時間である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調の悪い方や水分等が取れない方については水分量を記録しています。通常は一日1,200CC程度を目安にして体調を見ています。高カロリー補助食品の併用や刻み食対応等、個々に合わせ対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは習慣になっており、毎回実施されています。洗面所での手入れが難しい方については入浴時に洗い場で歯磨きをしてもらっています。衣類の汚れを気にする事無く、しつかり磨く事が出来ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつを使用されている方でも基本トイレ誘導を行います。時間を決めての誘導や落ち着きが無い時にはまずは便をもよおされているのではとトイレ誘導を試みます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	さつま芋やバナナジュース等は排便を促しますのでおやつに出す事があります。又、便秘症の方には冷たい牛乳を多く飲んでもらう様にしております。入浴時の腹部のマッサージも併用しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	Drストップが無ければ出来るだけ希望に沿って入浴できる様に対応していますが、現在入所されている方は毎日入りたいと希望される方が少ないです。	本人の希望を聞き、納得して入浴してもらうように支援している、拒否がある場合は、清拭等で清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後のお昼寝や就寝時間は20時～23時と幅を持たせていますので個々の時間に合わせて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録や薬箱に内服薬の説明書や説明書きがあり、その日のリーダーが毎回服薬確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フロア内の色々な役割を分担してもらう、お手伝い表を作り実行出来たら印を押してポイントを沢山ためて欲しい物と交換できるようにしています。働く喜びとためる楽しみを支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良いこれからは屋外に出掛ける機会を多くしており屋外での焼き肉大会やおやつを外で食べたりしています。近隣のお店に食事に行く事も有ります。ご家族様にも面会時に近隣の散策等に連れて行って頂ける様にお願いしています。	天気の良い日には、自然に恵まれた近くへ散歩に行ったり、季節の行事(梅見、花見、紅葉)を企画して、利用者が外の空気に触れる機会を、出来るだけ多く持つようにしている。リハビリ体操の導入も気分転換になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に管理が出来る方につきましてはご家族様と相談して所時して頂いております。ホームのお買い物に同行してもらう時はお支払いのお手伝いをお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じホームの電話を利用してもらう事は出来ます。又、手紙を出したい方につきましては、ポストや郵便局と一緒に掛付け自分で出されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は利用者さんにとって快適化を配慮して温度調整はこまめにしております。寒がりの方が多く夏でも冷房は高めの設定で冬場は特に湿度(40~60%)をキープできる様に注意しております。	玄関から廊下、居間のスペースにも余裕があり、ゆったりとした雰囲気である。また、掃除も行き届いている。利用者同士でゆっくりくつろげるソファや、一人になれる居場所も確保されている。かかりつけ医の大きな顔写真が掲示しており、ドクターへの信頼感、安心感につながると思う。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローから少し離れた場所にも椅子やテーブルを設置して自由に過ぎて頂けるスペースを作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に危ない物の持ち込みはお断りしていますが、これからは居室がご利用者のお家ですので自由に使って下さいと説明しています。各々で持ち込みをされています。	居室は清潔である。また、家族の協力を得ながら、利用者の馴染みの家具や写真を部屋に持ち込んでもらい、利用者が安心してくつろげるような部屋作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケース会議で個々に話し合う事もあり個別に食事の食器や盛り付けも工夫しています。全体の安全な環境整備につきましてはリスクマネジメント委員やサービス担当委員を中心に工夫をしています。		